



St. Luke's International University Chapel

聖路加国際大学聖ルカ礼拝堂

〒104-0044 東京都中央区明石町 10-1 TEL 03-5550-2416 (事務室)

E-mail : chapel@luke.ac.jp URL <http://nssk.org/tokyo/church/luke>

2024年4月7日(日) 復活節第2主日の福音メッセージ

チャプレン 成 成鍾 司祭

「再創造の過程」 ヨハネ 20:19-31 (※福音書は裏面に掲載)

父と子と聖霊のみ名によって、アーメン。

イースターを迎え、今日は復活後の水曜日でもあります。皆さんはキリストの復活について、どのような思いを持っているのでしょうか。もしかして、疑い屋さんトマスのように、復活のことが信じ切れない、ある種の疑いを持っているのではないのでしょうか。またそのような信仰の弱さのゆえに、いつも心の中から悩んでいるのではないのでしょうか。万が一そうであっても、それを思い煩うことは一切ありません。復活されたキリストは、今日の私たちの所にも来られ、私たちをもトマスのように復活を生きる新しい者とならせてくださるからです。

実は、復活されたキリストが、部屋に隠れていた弟子たち(トマスを含む)になさったことは、単なる復活の証明だけではなく、彼らを再創造するための過程だったとも考えられます。弟子たちに現れて、三回も「あなたがたに平和があるように」と祝福の言葉を述べ、息を吹きかけながら「聖霊を受けなさい」と語られたこと、また手とわき腹の傷跡をお見せになられたことは、すべて神様が人間創造の際に用いられたモチーフでもあるのです。つまり復活されたキリストは「聖霊を与える」などの一連の行動を通して、虚脱感と恐怖に覆われて霊的に死んでいた弟子たちを再創造してくださったのです。まさに彼らを「弟子」から「使徒」へ、つまりキリストに従う弟子から、キリストの代わりに生きる使徒へと、改めて生まれ変わらせてくださったのです。

ことにトマスが、他の弟子たちから「復活したキリストに出会った」という話を聞いた後、自ら信じるようになるまでの一週間のことを考えてみてください。おそらくその一週間は、トマスにとって悩みと葛藤、苦しみと混乱、もどかしさと後悔などが入り混じった大変なひと時だったに違いありません。そのような一週間、つまり七日間の創造の完成に向かう準備過程があったからこそ、トマスはキリストに一切触れることもなく、再創造された者として、あっさりと「わたしの主、わたしの神よ」と告白するようになったのではないか、と推察いたします。

疑い深いトマスは、信仰の浅い者の代表者ではなく、むしろ信仰を求めている私たちキリスト者の代弁者です。トマスから習えますように、心の中の疑いや疑問点を隠すことなく、勇気を持って語り合い、また徹底的に悩みながらも忍耐強く御心を求めていくことを通して、再創造の恵みに与る私たちになりますように願います。

最後にライナー・マリア・リルケ(Rainer Maria Rilke, 1875-1926)の言葉をご紹介します。お話を終わらせていただきます。

“私はあなたにお願いしておきたいのです。あなたの心の中の未解決のものすべてに対して、忍耐を持たれることを、まるで閉ざされた部屋のような、非常に未知な言葉で書かれた書物のような、疑問自体を愛してください。今すぐ答えを捜さないで下さい。あなたはまだそれを生きられないから、今与えられることはないのです。すべてを生きる、ということこそ大切なのです。今あなたは、疑問を生きて下さい。そうすれば、おそらくあなたは次第に、それと気づくことなく、答の中に生きていかれることになりましょう。”

父と子と聖霊のみ名によって、アーメン。

◆◆◆ ヨハネによる福音書 20章 19～31節 ◆◆◆

19 その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちは、ユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸にはみな鍵をかけていた。そこへ、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。20 そう言って、手と脇腹とをお見せになった。弟子たちは、主を見て喜んだ。21 イエスは重ねて言われた。「あなたがたに平和があるように。父が私をお遣わしになったように、私もあなたがたを遣わす。」22 そう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。23 誰の罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される。誰の罪でも、あなたがたが赦さなければ、赦されないまま残る。」24 十二人の一人でディディモと呼ばれるトマスは、イエスが来られたとき、彼らと一緒にいなかった。25 そこで、ほかの弟子たちが、「私たちは主を見た」と言うと、トマスは言った。「あの方の手に釘の跡を見、この指を釘跡に入れてみなければ、また、この手をその脇腹に入れなければ、私は決して信じない。」26 八日の後、弟子たちはまた家の中におり、トマスも一緒にいた。戸にはみな鍵が掛けてあったのに、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。27 それから、トマスに言われた。「あなたの指をここに当てて、私の手を見なさい。あなたの手を伸ばして、私の脇腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい。」28 トマスは答えて、「私の主、私の神よ」と言った。29 イエスはトマスに言われた。「私を見たから信じたのか。見ないで信じる人は、幸いである。」30 このほかにも、イエスは弟子たちの前で、多くのしるしをなさしたが、それはこの書物に書かれていない。31 これらのことが書かれたのは、あなたがたが、イエスは神の子メシアであると信じるためであり、また、信じて、イエスの名によって命を得るためである。